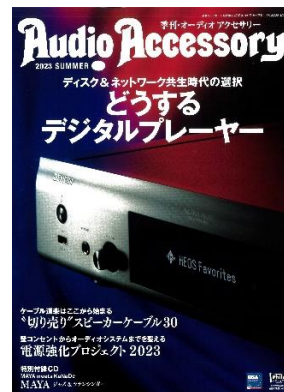


Audio Accessory  
2023 SUMMER 189 - JAPAN



### いままで挿せなかった機器もグレードアップ フルテック最上級電源ケーブルに 待望のスリムタイプ端子モデルが登場!

電源ケーブルをグレードアップしたくても、機材の端子周辺のスペースが狭く、電源ケーブルのIECコネクターが太くて差さらないことがある。そんな悩みに対応するスリムタイプのコネクターの電源ケーブルに、フルテックは新たなこだわりの選択肢を登場させた。NCFの採用などすでにラインアップする従来モデルに対し、最高峰という位置づけでコネクターを新開発。ケーブルやプラグも最上級にふさわしい作りだ。早速、その実力を検証しよう。

Text by  
園田洋世  
Yoshi Sonoda

Photo by 田代法生



## FURUTECH Powerflux-C15 NCF-18

電源ケーブル  
¥338,800 / 1.8m (税込)



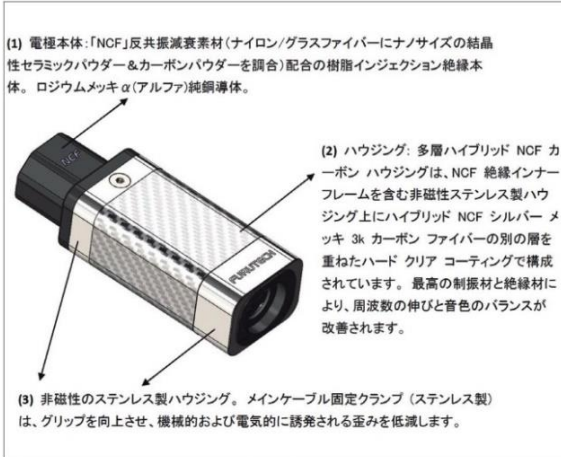
#### Specifications

●接続部端子部:プラグ(カーボンファイバー-NCF仕様)→FI-50M NCF(R)、IECコネクター(スリムタイプのカーボンファイバー-NCF仕様)→CF-C15 NCF(R) ●特殊素材[NCF]をプラグボディ部に調合。ナノ単位のセラミックパウダー、カーボンパウダーによるこれまでの強力な制振効果に加え、静電効果を向上 ●端子接点:非磁性ロジウムメッキ ●ケーブル素材:α-導体(OCC素材)の高密度導体 ●絶縁材:カーボンパウダー調合の高機能PVCを用いた2重シース構造(振動と外部からのノイズを遮断するとともに柔軟性を合わせ持つ) ●ケーブル直径:約17.5mm ●定格:15A 125V~(日本/米国/カナダ等)、10A 250V~(欧州連合地区)

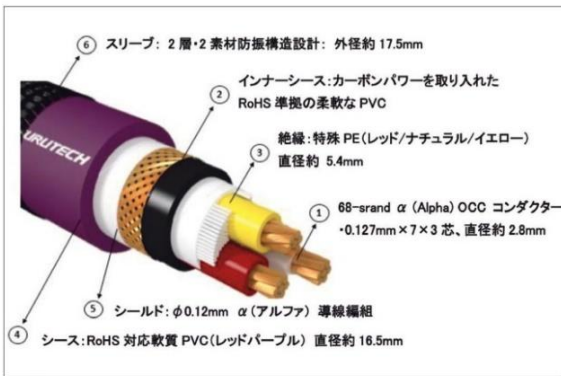
最高峰のこだわり抜いた新設計  
音質対策を凝縮したNCF端子  
リンのK L I M A X S O L O  
など、背面端子群の上に庇(ひさし)のある機器をお使いの方が電源ケーブルを交換してグレードアップを図ろうとしても、今までは選択肢がかなり限られていた。完成品電源ケーブルのほとんどが装着している丸いIECコネクターだと、庇が邪魔をして物理的に挿せないからである。そのため、スリムタイプのIECコネクターを装着しているケーブル製品が、コネクターの交換に対応してくれる限られたブランドの電源ケーブルの中から選ぶしかなかったのだ。しかしこの度フルテックから、内外の名だたるハイエンド電源ケーブルで採用されているフラッグシップ・IECコネクター、FI・50 NCF(R)のスリムタイプ、CF・C15 NCF(R)を装着したPowerflux・C15 NCF・18が誕生した!

試聴モデルを開梱すると、極太のケーブル本体の両端と中間部に配された、シルバークarbonファイバーがまず目に飛び込む。手に取るとうっしり重い。そしてIECコネクターCF・C15 NCF

# 電源供給が揺らがないからこそ顕在化する 空気の複雑精妙な揺らぎまでも明瞭に再現された



新開発のハイエンド パフォーマンス IECコネクター部「CF-C15 NCF(R)」の構造図(単売は未定)



ケーブル部の仕様と構造図

CF(R)は、円筒状の大きなFI・50NCF(R)をコンパクトな直方体に納まるようギュッと凝縮させたかのように、ダウンス化したサイズとは逆に高級感がアップしている。

技術的内容は、この限られた字数ではとても語り尽くすことができないほど盛り沢山だ。型番が示す通り、静電気対策特殊素材「NCF」を、振動対策用のナノサイズセラミック&カーボンパウダーと共にナイロン/グラスファイバーに調合してプラク随所に使用しているだけではない。NCF絶縁インナーフレームを含む非磁性ステンレス鋼ハウジング上に、ハイブリッドNCFシルバームッキ3kカーボンファイバーの層を重ね、最外層にはハードクリアコート。電極部はロジウムメッキした純銅α導体である。

ケーブル中間部には電磁ノイズ対策としてシルバーカーボンフィニッシュのGC・303EMI吸収材を装着し、更に振動ノイズ対策として内部にネオダンパーテクノロジーを採用。ケーブル本体もα導体を始め、絶縁体・シース等々全てがこだわり抜かれたものだ。

無音の凄みと克明な演奏の対比超のつくSN比と解像度に圧倒

オランダのTRPTK(トリック)というレーベルをご存知だろうか? モニターにKEFのBLADEやHEGELのアンプを使うTRPTKの録音は超がつく高音質なのだが、ブックレットには使用機材としてなんと「NCF Booster」の名も挙げられている。この試聴で聴かない手はないだろう。

同レーベルのSACD、マヤ・フリードマン(チェロ)、マールテン・ファン・フェーン(ピアノ)による「ストーク古代エジプトの女神をテーマとした即興演奏」はチエロとピアノの緊張感に満ちた掛け合いが録音会場の教会の空気を複雑精妙に震わせるのだが、即興演奏だけに2人の演奏家は自分の演奏とそれに呼応する相手の演奏を、各楽器から音が発せられることに揺れ拡がりゆく残響音と共に常に聴き感じながら、それらを踏まえて次の曲想と演奏を産み出していく。すなわち極めてダイナミックな演奏=作曲過程なのであり、生半可な再生システムを介し

てではその意義を聴きとることができない。

マランツSA・10の電源ケーブルを、私がいつも繋いでいる自作電源ケーブルからPowerflux・C15 NCF・18に換えると、NCF効果だろう、ノイズフロアがガクガクガクッと下がった。撞着語法めくが、この無音の凄みは実際に聴いた者にはしか分かるまい。絶対的な無音と、超高解像度で克明に伝わる2人の演奏との圧倒的コントラスト。そして電源供給が揺らがないからこそ顕在化する、空気の複雑精妙な揺らぎ。

対照的にスタジオで作られた山下達郎「アトムの子」を再生しても、かような超高SN比・超高解像度は威力を発揮する。手前で打ち鳴らされる鈴と、後方でパンパン叩かれるドラムとの距離感で音場の遠近が極めて明瞭。そして周囲の喧騒に掻き消され、直接音しか入っていないと思われがちな山下達郎のヴォーカルに、実はリヴァーブが一定程度かけられていたことがいとも容易く聴き取れる。Powerflux・C15 NCF・18は、庇に悩まされていたマニアにとって大いなる福音となるだろう。